

令和7年度 印西市民アカデミーだより 第16号

講座16：歴史散策③ 東国三社巡り

東国三社とは、鹿島神宮（茨城）、香取神宮（千葉）、息栖神社（茨城）の三社を指し、国譲り神話に由来する関東有数のパワースポットです。江戸時代には、江戸の文人や庶民の間で巡拝が盛んになり、日本橋から舟で行徳河岸へ、徒歩で木下河岸へ向かい、茶船で利根川を下る旅が記録されています。安政年間には木下河岸を出る船が年間約4,400隻に達し、当時の繁栄がうかがえます。今回は「古代より続く祈りの道を歩み、歴史と神話、そして自身の願いに向き合う旅」と題し、その魅力を探りました。

「時は、令和七年師走十九日。曇天に寒風そよぐ朝、古の祈りを巡る旅路へと、一歩踏み出しました。」
出発時は曇り空でしたが、時間が経つにつれ日差しが心地よい一日となりました。バスの車窓から坂東太郎（利根川）を眺め、木下河岸の歴史に思いを馳せながら東国三社へ。

香取神宮では朱色の二の鳥居をくぐり、灯籠が並ぶ表参道を進み総門・楼門を抜け、茅の輪をくぐって本殿へ。檜皮葺と黒漆を基調に極彩色が施された本殿は、御神威を感じる荘厳な佇まいでした。



香取神宮 二の鳥居

鹿島神宮では大鳥居から入り、日本三大楼門の一つを抜け本宮と高房社を参拝。鬱蒼とした奥参道を歩き奥宮へ。途中、「さざれ石」「鹿園」、地震を起こす大鯰を押さえる「要石」を見学。さらに急坂を下り、古くからの禊の場である御手洗池へ。透き通る水が今も湧き続けています。ここで昼食休憩後、息栖神社へ。



鹿島神宮 大鳥居

息栖神社では一の鳥居脇の井戸「押潮井」で幸運を呼ぶ女瓶・男瓶を覗き込み、二の鳥居を抜け手水舎で清め、神門を通過。「力石」や「招霊の木（一円玉の図案の木）」に感心し、社殿で参拝。コンパクトながら趣ある神社でした。



息栖神社 一の鳥居 忍潮井

今回の旅は、古代から続く祈りの道を歩み、歴史と神話に触れる貴重なひとときとなりました。三社それぞれに宿る神々の気配と、悠久の時を超えて受け継がれた信仰の重みを感じながら、参加者は静かに自らの願いと向き合いました。そして、道中では「楽しかった」「また訪れたい」という声も聞かれ、学びと癒しが調和された心豊かな一日となりました。